

平成23年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会
一次期総会地あいさつー



みなさんこんにちは。

山形県の酒田市の商工観光部長をしてございます小野と申します。まづもって、本日、舞鶴市さんで開催されました「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」総会のご盛会、心よりお祝い申し上げます。また、次回、平成24年度の開催地に立候補させていただきましたところ、ご選定をいただいたことに対しまして感謝申し上げます。まだ1年も先の話ではございますが、参加される皆さんが喜ばれるように、そして有意義な会になりますように、これから準備してまいりたいと考えております。

さて、これから酒田市について紹介させていただきたいと思いますが、山形県は東北の県でございます。先ほどから話題になっておりますが、東日本大震災のことを抜きに話すことはできないと存じます。震災発生から今の山形県と酒田市の様子を少し紹介させていただきます。

3月11日、酒田市では震度4の揺れを観測いたしました。しかし、建物や道路などの大きな損傷はありませんでした。また、山形県全体においても、地震が直接の原因となった死者はゼロでござ

ございます。建造物の一部にひび割れができた程度の被害にとどまりました。ただし、酒田市では、当日、雪が降っている中でしたけれども、地震直後から停電に見舞われ、電気ストーブが使えず大変寒い状況にありました。そしてまた、ガソリンや食料品が不足する事態となりました。太平洋側の交通網が壊滅的な被害を受けたため、東北の物流の中心地である宮城県仙台市に最も近い山形県は、震災の影響がすぐに現れたということでございます。続々と避難者が各市町村の避難所に入所されました。その他、山形空港では24時間体制で飛行機が飛び交い、酒田港にも様々な貨物が届くようになりました。日本海側拠点港が話題となってございますけれども、「代替機能」や「リダンダンシー」という言葉の大切さを身にしみて感じた次第でございます。

また、福島原発の関係でございますが、放射能については、山形県は影響が無い状況であります。しかしながら、県内に約1万人の福島県のみなさんが避難生活を送られています。山形県では「被災県に最も近い県」の自覚を持ち、行政や民間のみなさんが力を出し合い、被災者を温かく支援し、東北地域全体の復興の取り組みを続けております。

さて、ここからは酒田市について紹介させていただきます。酒田市は、山形県の北東部に位置し、日本三大急流の最上川が日本海と出会う港町です。広大な庄内平野は、対馬暖流の影響を受けた温暖湿潤な気候により、日本有数の穀倉地帯を形成しています。また、北西約39キロメートル沖合には、山形県唯一の離島「飛島」があり、秋田との県境にそびえる鳥海山とともに、鳥海国定公園に指定されてございます。

江戸時代、川村瑞賢によって開拓された北前船の西廻り航路の起点として発展し、「西の堺、東の酒田」と言われるほどの繁栄を極めて、今なお、その栄華を感じさせてくれる港町でございます。雛人形や我々の話す方言にも京都など、上方の名残があります。また、皆さんご存知のかもしれませんが、7月13日から青森県みちのく北方漁船博物館財団が復元した「みちのく丸」が、ずっと日本海側を航海したわけでございますが、8月19日から昨日まで酒田港に入港しておりました。大変、色々なイベントに取組んだところでございます。昨日の朝8時に見送りをして、秋田に向けた出港したところであります。

また、平成17年11月には、周辺の3つの町と合併し、新酒田市としてスタートを切りました。少子高齢化の波に押されておりますが、現在の人口は約11万人。農業を基幹産業としながら、県

内で唯一、国内外をつなぐ港湾を持つ都市として、心豊かで笑顔の絶えないまちづくりに努めているところでございます。

また、のどかな田園風景や自然豊かな地理的条件が好まれ、国内映画の撮影が頻繁に行われるようになりました。その中の1作品である、皆さまご存知の「おくりびと」は、第81回アカデミー賞外国語映画賞に輝きまして、市ではそのロケ地を今でも大切に保管しながら、観光地として多くのみなさまをお迎えしているところでございます。

肝心の酒田港でございますが、国際貨物コンテナの寄港地として、県内外の企業の皆さんから利用していただいています。また、平成4年に、東方水上シルクロードという事業に取り組んでいます。これは、山形県と中国黒竜江省の友好関係を深めまして、互いの貿易関係を築き上げ、両者の繁栄を導き出すという目的から活動が続けられているものです。

さて、舞鶴市さんから「タスキ」を受け取り、次期の開催をさせていただくわけではありますが、いただいた「タスキ」を次に繋ぐということが一番重要な任務と考えています。つまりは、この「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」の主旨に賛同しましてご参加いただいている皆さんが、交流を進めることで、それぞれも地域がにぎわい、そしてまた次の年にとつながっていく。このようなイメージを持ちながら来年への準備をスタートしたいと思います。

それではみなさん。また来年、酒田でお会いできることを楽しみにしております。貴重な時間をいただきましてありがとうございます。挨拶とさせていただきます。